OCCH

No.33　2006. 3. 31

（財）大阪府文化財センター

Osaka Center For Cultural Heritage

シリーズここまでわかった考古学

左　日本民家集落博物館「はたおりの歴史展」展示風景と調査成果報告会

中央　弥生文化博物館「弥生ムラの風景」

中央　展示風景と調査成果報告会・ミニシンポジウム

右　近つ飛鳥博物館「太秦古墳群　発掘調査成果」展示風景と調査成果報告会ミニシンポジウム

もくじ

P．2
- 北河内発掘！緑立つ道に歴史わきたつ
- 平成17年度小テーマ展示

P．3
- 平成17年度文化財講座
- 郷土の文化財を見学する会
- 歴史体験隊
- 第52回大阪府埋蔵文化財研究会

P．4
- シンポジウム　世界の文化遺産を語る
- 堅田　直理事の叙勲受章祝賀会
- 体験学習
- 指定管理者決定、準備室オープン

P．5
- ミニ講座（民家博）
- 共同研究
- スポット展示
- 出土遺物画像データベース
- 海外研究者来訪

P．6
- 全埋協　中国研修
- 第16回考古学国際交流研究会

P．7
- 池内遺跡　現地説明会
- 上私部遺跡　現地公開
- トピックス
  ＊三つ掛けカマド

P．8
- 弥生文化博物館　春の展示ご案内
- 近つ飛鳥博物館　春の展示ご案内
- 日本民家集落博物館　催しご案内（４月～７月）

北河内発掘！緑立つ道に歴史わきたつ

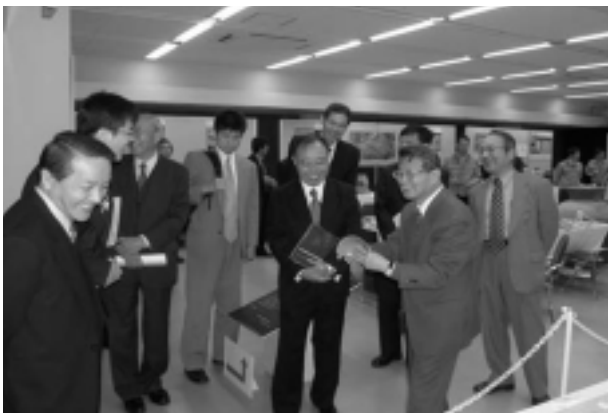
平成17年11月19日から23日の延べ５日間、寝屋川市市民会館において、平成12年度より本格的な発掘調査を実施している第二京阪道路内遺跡の埋蔵文化財調査の成果を出土遺物の展示及びパネル・ビデオで紹介する「北河内発掘！」を大阪府教育委員会等の共催で行った。展示品の内訳は遺物の出品数540点、パネル等43点、模造品１点で現地説明会の雰囲気をそのまま持ち込むこととし、発掘中の遺跡の出土品も展示することで速報的な意味合いが持てるよう努め、参加者との対話を通じてパネルを増加するなど、成長する展示を試みた。

また、期間中展示だけでなく室内に土器の接合体験コーナーも設け、子どもだけでなく大人からも好評であった。期間中の参加人数は1,335名を数えた。

なお、展示会に合わせて23日には、同所大ホールにおいて当センター水野正好理事長と高野浩二理事の記念講演と調査担当者による発掘調査成果報告会を実施した。報告した遺跡は、上の山遺跡・上私部遺跡・太秦遺跡・高宮遺跡・讃良郡条里遺跡の６遺跡で252名の参加があった。

展示会に合わせて第二京阪道路内の遺跡を網羅した図録、講演会では発表資料集を作成し、ともに高い評価をえた。図録及び発表資料集は、現在当センター普及資料課において販売も行っている。　（山本　彰）

展　示　会



理事長による展示解説

平成17年度小テーマ展示

センターの調査研究の最新成果を紹介する「シリーズここまでわかった考古学」が始まってから３回目を数える、平成17年度の小テーマ展示を紹介します。

A　「はたおりの歴史展―古代の織物生産を考える―」
日本民家集落博物館内　カルチュアはっとり
平成18年２月11日（土・祝）～２月26日（日）
入館者総数　1,619名
調査成果報告会
２月18日（土）午後１時30分～３時30分
「弥生時代の群倉」福岡　澄男（(財)大阪府文化財センター）
「機織に関する歴史的研究」
黒須亜希子（(財)大阪府文化財センター）
参加者数　31名

B　「弥生ムラの風景―八尾南遺跡の最新成果―」
平成18年２月18日（土）～３月21日（火・祝）
大阪府立弥生文化博物館　特別展示室
入館者総数　2,480名
調査成果報告会
３月５日（日）午後２時～４時
「土器に描かれた絵画―八尾南遺跡出土遺物を中心に―」
正岡　大実（(財)大阪府文化財センター）
参加者数　108名
ミニシンポジウム「弥生後期集落の景観」
３月12日（日）午後１時～４時
コーディネーター
小山田宏一（大阪府立弥生文化博物館）
講師
高田　健一（鳥取大学地域学部地域環境学科）
岡村　　渉（静岡市役所市民局文化スポーツ部文化財課）
岡本淳一郎（(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所）
土井　孝之（(財）大阪府文化財センター）
岡本　茂史（(財）大阪府文化財センター）
参加者数　170名

C　「太秦古墳群　発掘調査成果―大阪の初期群集墳を考える」
平成18年３月12日（土）～３月26日（日）
大阪府立近つ飛鳥博物館　特別展示室
入館者総数　1,042名
調査成果報告会とミニシンポジウム
「大阪の初期群集墳を考える」
３月19日（日）午後１時～４時
第１部　調査成果報告会
「太秦古墳群」　市本　芳三（(財)大阪府文化財センター）
「総持寺古墳群」小浜　　成（大阪府立近つ飛鳥博物館）
「郡戸古墳群」　三宮　昌弘（(財)大阪府文化財センター）
「長原古墳群」　大庭　重信（(財)大阪府文化財センター）
第２部　ミニシンポジウム
コメンテイター　白石太一郎（大阪府立近つ飛鳥博物館館長）
司　会　　森本　　徹（(財)大阪府文化財センター）
参加者数　129人

平成17年度文化財講座

前号に続き第７回～10回を点描。

第７回、小南一郎氏は、卑弥呼の政治思想の背景となる中国の神仙思想をお話された。小南氏の思想史に裏けられた解釈は奥の深いものであった。

第８回、難波洋三氏は、長年取り組んでこられた銅鐸の研究から弥生終末期の銅鐸の様相をお話された。その中で、銅鐸も神獣鏡と同じように有力者から下賜されたものといわれた事が特に印象に残った。

第９回、大橋信弥氏は、魏志倭人伝の世界を歴史学上の言葉で説明され、考古学の成果も盛り込まれ大変分かり易いご講演であった。

第10回、和田晴吾氏は、弥生墳丘墓・古墳の変遷と国家を構成する大王・首長層・共同体上層・一般民衆の枠組みから日本列島最初の国家を形成した卑弥呼政権の位置を明確にお話され、「魏志倭人伝の世界」を締めくくられた。

今年度の講座は、出席者は243名～164名（延べ1900名・平均190名、出席率71％）で、全講座出席者は47名であった。このように沢山の方々にご参加いただけたことは本当に担当者冥利に尽きることであり、皆様に感謝申し上げます。

また、興味の尽きないお話をいただいた諸先生に厚く御礼申し上げます。（石神幸子）

郷土の文化財を見学する会

平成17年11月13日に第７回例会を開催しました。広陵町教育委員会井上義光氏の案内で巣山古墳、乙女山古墳、新木山古墳、牧野古墳など、馬見古墳群を見学しました。

同古墳群の消長を考えるにあたり、古代氏族葛城氏と大和政権との係わりが反映されていることを学びました。

第８回例会は12月10日にバスツアーを開催しました。岡山県赤磐市山陽地方を訪れ、まず赤磐市山陽郷土資料館にて同館学芸員高畑富子氏から同地域の古代文化の概要を学んだ後、赤磐市教育委員会有賀祐史氏の案内で、両宮山古墳、牟佐大塚古墳、備前国分寺跡などを巡りました。

古代の吉備地方と言えば造山古墳、作山古墳や備中国分寺のある岡山県南西部の総社市周辺が有名ですが、南東部にも、古代吉備文化の中心地があることを知りました。

第９回例会は平成18年１月８日に大阪歴史博物館の村元健一氏の案内で、大阪市住吉区を訪れ、住吉大社とその周辺の史跡を巡りました。住吉大社は「すみよっさん」として大阪周辺の人々に親しまれていますが、宮司も勤めた津守氏との係わりが古代から深いことが良くわかりました。

第10回例会は２月12日に本年度最後の例会として富田林市教育委員会の中辻亘氏の案内で富田林市、石川中流域左岸の遺跡と史跡を巡りました。お亀石古墳、新堂廃寺、寺内町など、盛りだくさんに廻りましたが、中辻氏の熱心な説明に参加者は聞き入りました。（岡本圭司）

歴史体験隊

2005年７月から2006年１月にかけて、日本民家集落博物館を拠点に活動した歴史体験隊。財団法人大阪府文化財センター職員12名の方に交替で指導隊員としてご協力をいただき、全６回を無事に終了しました。

毎回いきいきと目を輝かせて活動に取り組み、仲間同士協力しあい、ときには競い合い、楽しんでいた子どもたちの姿は、とてもすてきでした。「また来年もあるの？」「こんどは何をするの？」という子どもたちの問いかけで、疲れも苦労もすべて飛んでいきました。ご協力いただいた職員の方々に感謝、そしてなにより、子どもたちに感謝！

（峠　美穂）

終了式（１月22日 大和十津川の民家にて）

第52回大阪府埋蔵文化財研究会

平成18年３月11日（土）に第52回大阪府埋蔵文化財研究会を大阪歴史博物館講堂にて開催しました。

テーマは「中近世を中心とした遺跡調査の成果を語る」です。発表６本と記念講演として、大阪歴史博物館長脇田修先生と今年度で定年退職される（財）大阪府文化財センター井藤暁子さんにお話していただきました。

新しい遺跡の分析方法や仮説が各人によって提示され、今後の研究に一石を投じることとなるであろう最新の成果が披露された内容の濃い研究会となりました。

日程が、飛鳥京跡の現地説明会等と重なり、当館での開催にしてはやや少ない79名の参加者ではありましたが、皆さん熱心に各発表に聞き入っておられました。（岡本圭司）

脇田修先生の記念講演

シンポジウム　世界の文化遺産を語る

世界考古学会議中間会議大阪大会を記念して、当センター・（財）大阪市文化財協会・世界考古学会議・同中間会議大阪大会実行委員会主催、毎日新聞社特別協力のもと、2006年１月15日に大阪市中央公会堂で標記のシンポジウムを開催した。サブテーマは「多様な文化の共生に向けて」であった。クレア＝スミス（世界考古学会議会長）「オーストラリア・アボリジニの文化遺産が人類進化研究に意味するもの」、ドン＝ヘンソン（英国考古学協会教育担当）「英国の考古学的景観と文化遺産教育」、申敬澈（釜山大学校教授）「韓国における開発と遺跡の保存」３氏の講演の後、金関恕弥生文化博物館長、佐々木泰造毎日新聞社学芸部副部長の司会で、活発な討論が行われた。

シンポジウム風景

堅田　直理事の叙勲受章祝賀会

当センター理事の堅田直氏が、2005年秋の叙勲で瑞宝小授章を受章され、今年２月26日、大阪市内のホテルで友人・知人120余名が参加して祝賀会が開かれた。

山本順英帝塚山学園理事長をはじめ、５人の方々が祝辞を述べられた後、青山茂帝塚山大学名誉教授の発声で乾杯が行われ、なごやかな雰囲気の中で会が進行した。最後に堅田理事ご自身による謝辞と、当センター水野理事長による発起人謝辞が述べられた。なお参会者に対し、堅田理事のご著書『遺跡から学ぶ』その他が手渡された。

祝賀会風景

体験学習

羽曳野市立峰塚中学校の２年の男子生徒３名が、労働体験学習をするために11月17日・18日の２日間、南部調査事務所古市分室にやってきました。

１日目は、紙粘土で土器を作り、土器の作り方や痕跡などを調べた後、土器の復元作業をしました。瓦器や土師器の破片を接合し、不足の部分を補うために石膏を埋め、埋めた石膏の不要部分を削り、形を整える体験をしました。

２日目は、様々な道具を使って土器の実測をし、標準土色帖をも使い、土器を様々な視点から観察して結果を実測図に記入しました。最後に冊子を作成して終わりました。

土器を実測中の生徒

指定管理者決定、準備室オープン

大阪府立弥生文化博物館と近つ飛鳥博物館ならびに近つ飛鳥風土記の丘の管理運営に指定管理者制度が導入されることになり、わがセンターが３施設一体で管理運営を受けることになりました。

４月１日から滞りなく博物館業務を受け継ぎ、４月後半から始まる特別展の準備をするには、ぎりぎりのタイミングだった10月１日に、福岡部長を室長として博物館運営準備室を南部調査事務所におくことになりました。

それぞれ大なり小なり兼務を抱えての出発で、当初は学芸スタッフ２名だけの専属でしたが１月からは大所帯になり、準備室もより大きく模様替えをしてきました。

予算書の作成に加え、特別展の企画とそれに伴う資料調査や貸し出し依頼など不慣れな業務が目白押しで、両博物館の学芸員や専門員、事務スタッフの方々から物心共に協力をいただくことになりました。

博物館運営準備室は３月末をもって解散しますが、ポスターとチラシ、招待状などの印刷物はほぼ発送準備も終わり、いまは図録の完成に向けて邁進中です。４月からは特別展の準備で休日もままならぬ日々になるでしょう。

博物館は待ったなしです。とにかく無事に、これまで両博物館が築いてきた水準を継承し、願わくばより活気あるものにしたいと思っています。ぜひとも皆様のご協力を。

ミニ講座（民家博）

開催３年目になる平成17年度ミニ講座の第２弾として、当センターと日本民家集落博物館との共催で、民家博　秋の企画展会期中の連続講座「山人の声を聴く―九州山地に暮らす人々に学ぶ自然との共生―」をカルチュアはっとりを会場として４回シリーズで開催した。

第１回　　11月12日（土）
「奥深い椎葉の民俗の諸相」
永松　　敦氏（宮崎公立大学助教授）
第２回　　11月19日（土）
「椎葉村の生業複合」
野本　寛一氏（近畿大学教授）
第３回　　11月26日（土）
「椎葉村の民家建築」
青山　賢信氏（大阪工業大学名誉教授）
第４回　　12月３日（土）
「椎葉の植生と植物利用」
野間　直彦氏（滋賀県立大学講師）

椎葉村をテーマとする講座は、昨年に引き続き２年目であるが、講師の先生方のいろいろな専門領域のお話は、参加された皆さんから大変好評で毎回参加された方が目についた。カルチュアはっとりでいろいろな催し物を開催していることが皆さんに周知されるようになってきたためか、参加者も徐々に増え15名～23名（延75名）の参加があった。

共同研究

４年目を迎えた2005年度の（財）大阪府文化財センターと３博物館との共同研究は、各博物館の展示の企画に併せて下記のテーマで充実した研究協議が行われた。

日本民家集落博物館　住居に関する総合的研究（４）
府立弥生文化博物館　弥生後期集落の景観的研究
府立近つ飛鳥博物館　須恵器生産の成立と展開

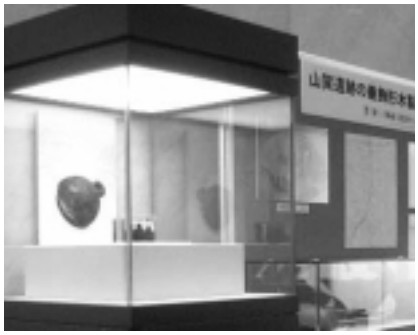
外部メンバーとして、民家博では宮崎県椎葉民俗芸能博物館の黒木光太郎氏・神戸深江生活文化史料館の望月浩氏、弥生博では静岡市役所の岡村渉氏・（財）富山県文化振興財団の岡本淳一郎氏・鳥取大学の高田健一氏、近つ博では（財）大阪市文化財協会の田中清美氏・滋賀県立大学の田中俊明氏・和泉市教育委員会の白石耕治氏・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の木下亘氏・大阪歴史博物館の佐藤隆氏の参加をえて共同研究を行った。

研究の成果を広く紹介するため、民家博では２月に２回の一般向け共同研究発表会、近つ博・弥生博では３月に一般向け共同研究発表会をシンポジウムという形で行ったが、３館とも殊のほか盛況で、どの会場も熱気に包まれ参加者であふれかえった。近つ博・弥生博では共同研究の要旨集の購入希望者が多く、販売予定数を遥かに上回る状況となった。なお、前年度の成果を集約した2004年度共同研究成果報告書は2006年３月に刊行される予定である。

スポット展示

平成16・17年度に調査した山賀遺跡（八尾市新家町）では、弥生時代の溝群や木棺墓などが見つかり、多くの遺物も出土しました。そこで、2005年２月に現地説明会を、３月にはそれまでの速報展示を行いました。その後、類例のない「垂飾」形木製品（本誌No.32に紹介）が弥生時代前期の土坑から出土したので、再度、弥生文化博物館で速報展示しました。

新聞報道されたこともあり、年末の12月13～27日というあわただしい時期でしたが、熱心な見学者がありました。



「垂飾」形木製品の速報展示

出土遺物画像データベース

全国埋蔵文化財法人連絡協議会の近畿ブロックでは、近畿版出土遺物データベースの作成を試みています。

このデータベースの目的は、「近畿版出土遺物データベース」は、近畿ブロック参加法人が刊行した報告書に収められた出土遺物の中から、遺跡、調査、遺構を代表する遺物をまとめ閲覧、検索するためのもので、発掘調査、整理作業や研究活動の一助となるものと考えます。さらには、「近畿版出土遺物データベース」を広く公開することで、埋蔵文化財の有効活用などにも広く応用できるものと考えます。特に、このデータベースの特徴は、遺物画像を優先させたことです。2006年１月には2004年度刊行分のデータベースが完成して「評価版」として配付いたしました。

現在、公開はしておりません。　　（村上年生）

海外研究者来訪

２月８日、釜山大学金斗喆氏が来阪、府立近つ飛鳥博物館を訪問。開催中の特別展「陶邑の須恵器，年代のものさし」を視察された。同じく２月８日、韓神大学の権五栄氏と文化財研究所の金落中氏が中部調査事務所を訪問。溝咋遺跡と小阪合遺跡から出土した韓国系遺物を調査された。２月20日～23日、釜山大学博物館の全玉年氏が来阪。南部調査事務所、中部調査事務所、京阪調査事務所や、発掘調査現場、弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館などを訪問。両博物館では開催中の「弥生ムラの風景」、「陶邑の須恵器，年代のものさし」展を視察された。先の権五栄氏等の調査では、韓国系なかでも百済系遺物の存在を指摘され、当センターにとってきわめて有意義であった。

全埋協　中国研修

平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会の海外研修が、12月６日から13日にかけて実施された。研修地は昨年度と同じ中国浙江省・福建省であるが、昨年度好評であった龍泉窯に、今回は天目茶碗の生産で有名な建窯や、中国磁器発祥の地である越窯、さらには7,000年前の稲作農耕文化の遺跡として有名な河姆渡遺跡を加えた、考古学を学ぶ者にとっては非常に充実した内容の研修となった。

この研修には北海道、山形、千葉、富山、大阪（２）の６法人、13名が参加し、当センターからは鳴澤、片山、廣瀬、伊藤の４名と、日本民家集落博物館の井藤、さらには前調査部長である大阪府文化財保護課の玉井が参加した。

窯跡の見学では、物原に転がる膨大な量の匣鉢や陶磁器片にまず圧倒され、つづいて、まさに龍のように長くのびる窯の構造に驚かされた。出土品を手にしながらの説明では、製作技法や釉薬の特徴など非常に詳しく解説していただいた。関連する博物館では、焼成方法などがわかりやすく説明されており、現地に転がる匣鉢の使い方などについての知識を深めることが出来た。また館長さんなどとの懇談会は、活発な質疑・意見交換が行われ、たいへん有意義なものとなった。

実物を見て、触れることが出来た今回の貴重な経験を、我々の今後の発掘調査や研究活動に生かしていかねばならない。　（伊藤　武）

上林湖畔の荷花芯窯

河姆渡遺跡

第16回 考古学国際交流研究会

平成18年１月８日～14日まで考古学国際交流研究会企画により、南部調査事務所の藤田憲司、市本芳三、中部調査事務所の三好孝一の３名が韓国研修に参加した。

今回の研修は釜山を皮切りに、韓国南部の発掘調査現場視察、全羅道地域の前方後円墳や支石墓の現地見学と各地の研究者との意見交換、さらに、昨年秋に全面的に作り直して開館した国立中央博物館の見学を主な目的とした。

釜山では申敬澈先生や全玉年先生のご配慮で、宋桂鉉先生と洪植先生が福泉洞博物館で出迎えてくださった。

咸安市では河承哲先生の出迎えを受け、センターを訪問されたことがあるパクミジョン女史の発掘現場を見学、晋州市では慶尚大学の趙榮濟先生が学生を引き連れて12万㎡におよぶ平居洞遺跡の発掘現場を案内して下さった。原三国時代の竪穴住居群のほかに、馬山市鎮東遺跡の方形貼石墓と似た、無文土器時代の墳墓を発掘中であった。

全羅道では崔完奎先生のお世話になり、予定外の全北文化財研究院、高敞の支石墓群、全北大学（上雲里遺跡発掘資料）を見学することができた。２万基あったという高敞の支石墓は、雪景色の中で鮮烈な記憶となった。

木浦では崔完奎先生のお手配と木浦大学博物館長の李榮文先生のご配慮で、博物館の開館を早めて見学時間を作って下さった。李榮文先生は支石墓研究の第一人者で、ご教授願う時間のなさが心残りとなった。再訪を期す。

韓神大学では、センターでも顔なじみとなった権五榮先生と大勢の学生が出迎えて下さり、百済最初期の都城と目される、現在整理中の風納土城発掘資料を見学した。６時近くになっても整理作業にいそしむ学生さん達は、活気にあふれていた。

一週間の研修中、唯一雨にあった日は一日中、中央博物館見学。正面の右半分が、常設展示館。展示ケースの前を一巡すると４㎞あるそうだ。ボランティアスタッフは一日100人という。左側の６階建ては子供博物館と特別展示室、学芸室と事務棟がある。孫明助課長に一部を案内していただいたが、学芸課の一画でも迷子になりそう。とにかく大きい。一日では全部を見学できそうにない。　（藤田憲司）

高敞の支石墓群

池内遺跡 現地説明会

松原市に所在する池内遺跡では、平成18年１月21日に現地説明会を開催した。本調査地では、平安時代中期の屋敷地とその東と西の両端で屋敷境を検出した。屋敷地内は大形の掘立柱建物を中心に周囲に付属的な建物を配置していた。東の屋敷境は両側に側溝を持つ畦状の高まりであり、これより東側では耕作地が広がっていた。またこの屋敷境が現在の松原市域に残る条里型地割をちょうど二分する位置にあたり、この地域での条里制の施行開始時期と当時の土地利用を考える上で重要な遺跡である。当日は地元の方々を中心に331名の参加を得た。（永田由香）

池内遺跡現地説明会

上私部遺跡 現地公開

1月21日、交野市の上私部遺跡で現地公開を行なった。

調査は第二京阪道路建設に伴うもので、本年度の調査では古墳時代後期の集落構造が明らかとなった。

公開当日は寒風が吹きすさぶ非常に寒い日となったが、交野ドームで開催された第二京阪道路関連の展示と合わせて、700人以上の参加者を得る大盛況となった。

現地での説明は６回行ない、地元の方々を中心として、方形区画の溝や、その中に整然と立ち並ぶ掘立柱建物群、出土遺物などの説明に熱心に聞きいり、担当者に対して積極的に質問を投げかける姿もみられた。（丸吉繁一）

上私部遺跡現地公開

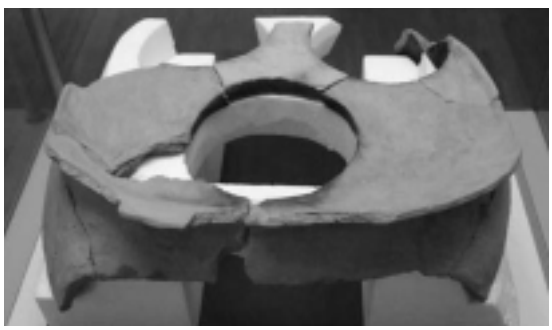
トピックス

＜＜＜ 三つ掛けカマド ＞＞＞

京阪調査事務所管内で行なった讃良郡条里遺跡（その９）の発掘調査で、古墳時代後期の包含層より、掛け口が三つもある珍しい移動式のカマドが出土した。カマドは幅約45㎝、奥行きが推定40㎝、高さについては裾部を欠いており不明であるが、一般的なカマドの高さと大きく違わなかったのではないかと考えられる。掛け口の配置は、前後が逆になるが現在の一般的な三つ口のコンロと同じである。ただ現在のコンロが火力に応じて掛け口の直径を変えているのに対して、出土したカマドでは掛け口はいずれも直径が約14㎝とほぼ同じであった。このような三つ掛けの移動式カマドの出土は国内では他に報告されていない。このカマドは居住域に隣接した谷から出土していたことから、破損など何らかの事情で投棄されたものと考えられるが、カマドの内側に煤の付着が認められ、実用品であったことがわかっている。

なぜこのようなカマドが作られたのか。少量で複数の食事を同時に調理する必要が生じた時に効率性を求めた結果、生み出されたのがこの三つ掛けのカマドだったのかもしれない。「少量で複数の食事を同時に調理する」と考えると、このカマドで調理されていたものは神に捧げるための供物だったのかもしれない。いろいろと想像をめぐらせてしまう遺物なのだが、他に出土例を見ないことや、これ以降にも三つ掛けカマドの使用例が認められないことから、このカマドは定着することは無かったのではないかと考えられる。

（村田昌也）



三つ掛けカマド

弥生文化博物館　春の展示ご案内

春季特別展『弥生画帖―弥生人が描いた世界―』
4月22日（土）～7月2日（日）（毎週月曜日休館）
主　催　大阪府立弥生文化博物館・毎日新聞・毎日放送
後　援　財団法人大阪21世紀協会
協　賛　株式会社国際交流サービス
入館料　大人600円　65歳以上・高校生400円
／中学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料
電　話　0725－46－2162
http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/

講演会　4月23日（日）午後2時～4時
対談　『弥生人が描いた世界』
水野　正好（財団法人大阪府文化財センター理事長）
金関　　恕（大阪府立弥生文化博物館館長）

考古学セミナー
第1回　5月7日（日）午後2時～4時
『二つの人物画に見る弥生のシャーマン像』
講師　藤田　三郎（唐古・鍵考古学ミュージアム）
第2回　5月21日（日）午後2時～4時
『弥生絵画研究のあゆみと展望
―弥生絵画は誰が、なぜ描いたのか―』
講師　橋本　裕行（奈良県立橿原考古学研究所）
第3回　6月4日（日）午後2時～4時
『弥生人が見た鹿と羊について』
講師　深澤　芳樹（独立行政法人　奈良文化財研究所）
第4回　6月18日（日）午後2時～4時
『なぜ、鹿が描かれたのか』
講師　野本　寛一（近畿大学文芸学部）

近つ飛鳥博物館　春の展示ご案内

春季特別展『古代の工房～豊かなる都・寺のきらめき～』
4月29日（土）～7月2日（日）（毎週月曜日休館）
主　催　大阪府立近つ飛鳥博物館・文化庁・
読売新聞大阪本社・読売テレビ
後　援　近畿日本鉄道株式会社
入館料　大人600円　65歳以上・高校生400円
／中学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料
電　話　0721－93－8321
http://www.mediajoy.com/chikatsu/

講演会　4月30日（日）午後2時～4時
対談『ここに飛鳥時代はじまる』
水野　正好（財団法人大阪府文化財センター理事長）
白石太一郎（大阪府立近つ飛鳥博物館館長）

歴史セミナー
第1回　5月14日（日）午後2時～3時30分
『飛鳥の工房』
講師　松村　恵司（独立行政法人　奈良文化財研究所）
第2回　5月28日（日）午後2時～3時30分
『古代瓦工房組織を復原する』
講師　上原　真人（京都大学）
第3回　6月11日（日）午後2時～3時30分
『難波のミヤコつくりと技術革新』
講師　古市　　晃（花園大学）
第4回　6月25日（日）午後2時～3時30分
『古代の“官営工房”と飛鳥池遺跡』
講師　寺崎　保広（奈良大学）

日本民家集落博物館　催しご案内（4月～7月）

◆米蔵ミニギャラリー展示「民家集落中国ツアー写真展」
＜4/1（土）～13（木）＞
今年2月に行った民家集落中国ツアーの参加者が撮影した写真を展示。（4/8（土）～9（日）13：00～15：00、ツアー参加者による体験談を開催。）

◆八十八夜お茶セミナー
＜5/3（水・祝）～5（金・祝）11：00～15：00＞
八十八夜にちなみ、日本各地のお茶の試飲とトーク。

◆こどもアート＆クラフトまつり
＜5/4（木・祝）～5（金・祝）10：30～15：30＞
いろいろな素材を使っての作品作りを親子で体験。

◆むかしの遊び体験
＜5/6（土）～7（日）13：30～15：30＞
コマ・竹馬・折り紙・おじゃみ等の体験と宝さがし。

◆日本の暮らし－春の歳時記－
＜5/10（水）～6/25（日）＞
カルチュアはっとりと越前敦賀の民家にて稲作の準備に関わる考古資料と民具資料の展示。

◆養蚕体験
＜7月上旬～＞
飛騨白川の民家での養蚕体験。

◆民家模型作り
＜7/28（金）～30（日）10：00～13：00＞
カルチュアはっとりにて、当館移築の摂津能勢の民家模型作り体験。（材料費800円。各日とも20名。要予約。）

※上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。
（TEL　06－6862－3137）